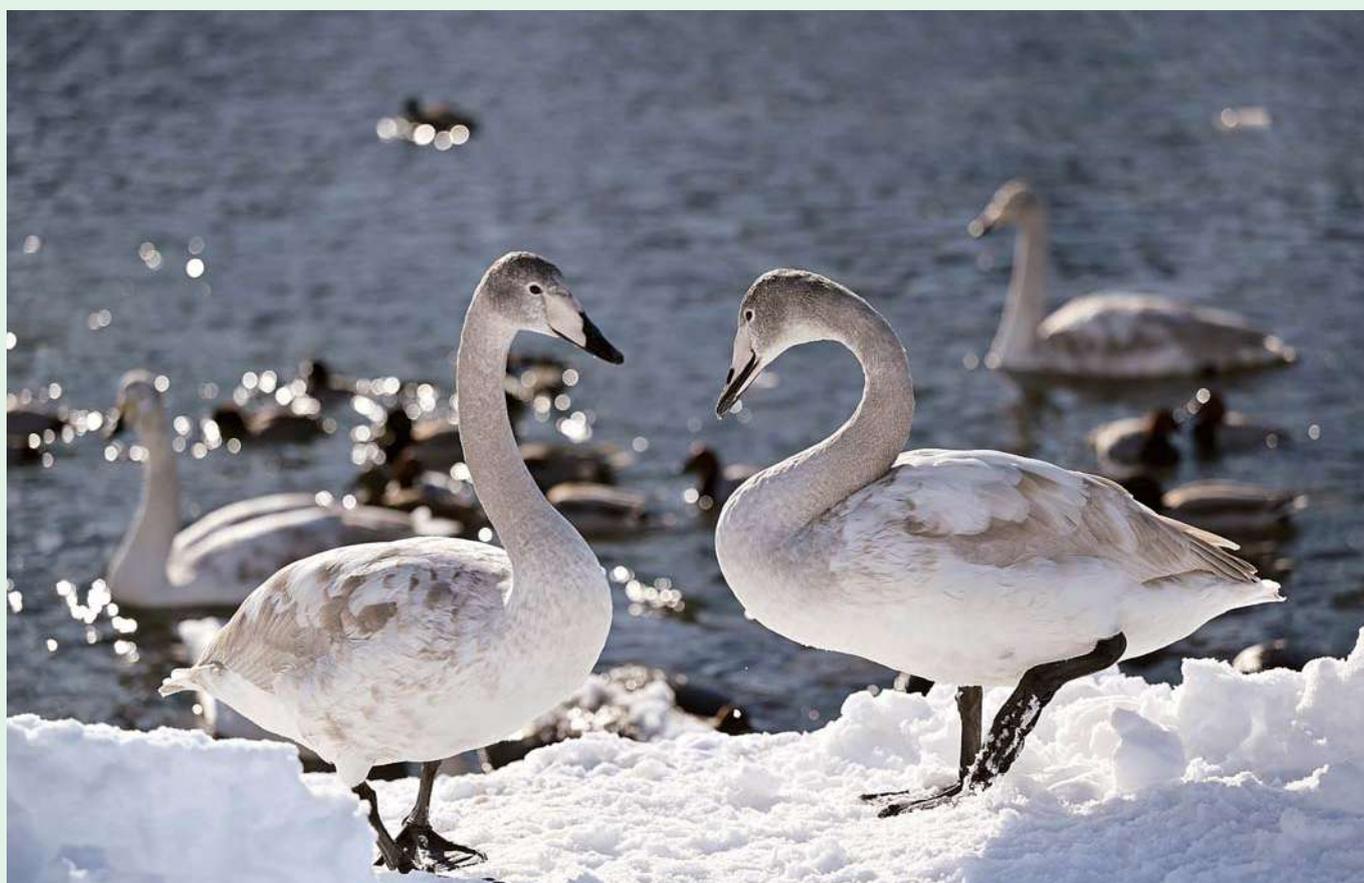


老健

にいいがた



タイトル：白鳥のハート（下田・五十嵐川）
介護老人保健施設でらどまり 松永 健太（看護）

- 1 ● 巻頭言
- 2～4 ● 特集：外国人職員雇用についての取り組み
- 5 ● 令和7年度外国人人材雇用に関するアンケート結果報告
- 6～7 ● 研修会報告
- 8～9 ● 令和7年度 新潟県介護老人保健施設大会
- 10 ● 市民公開セミナー
- 11～14 ● こんなことやってます!!～会員施設の取り組み～
- 15 ● みんなの広場

表紙：風景の
写真を募集
しています!!



ROKENくん

介護老人保健施設の 医師になりました。



越南苑 石田 央

ひょんなことから介護老人保健施設の医師になりました。

長らく五日町病院で精神科医師を務めていましたが年齢も加わり体力、気力、記憶力も減退しそろそろ老健利用者として入所かなと覚悟していた所、昨今の医師不足のあおりを受け、ひょんなことから老健の入所者ではなくて医師となりました。しかしやってみると老健医師は隠居仕事でも閑職でも有りません。ととてもとても片手間に出来る職務では有りません、というのが偽らざる感想です。

入所頂いている皆様は80歳台、90歳台の方々が大多数で100歳を超える方も少なからずいらっしゃいます。その上皆さん沢山の持病を持って入所されて来られます。その疾病の範囲は婦人科から精神科までいわゆる総合病院で言う小児科を除く全科にまたがると云っても過言ではないのです。また血液等の生化学的検査所見も高齢者は特有で、成人一般とは異なる場合も多々あります。一般の成人対象の医学常識が通じない場合が多くあるのです。例えば一般成人の正常値を基準とすれば大多数が貧血、栄養障害、腎機能障害等々診断されるかもしれません。中には赤血球数250万以下、血色素7.5g/dl以下、糸球濾過値15%未満でも全く平気なお年寄りもおられ、我々が教わってきた正常値と大きく乖離している現実もあります。

現代の西洋医学の体系では疾病が臓器別、病因別に分類され、それに従って治療がなされます。

そして各々の診断に対し投薬がなされる傾向があります。高血圧、貧血、骨粗鬆症、心不全等々、それぞれの診断に基づき投薬がなされるのでその結果、服用薬が10種類、15種類と無数に増えるという恐ろしい事態が生じます。もはや服用は物理的に不可能である場合もあります。全老健でも老健への入所を機会に薬の整理をするよう指導しているくらいです。だがこれが原因で処方医との軋轢が生じる場合もあり困惑する時も稀にあります。とにかく高齢者の病気の特徴は多くの場合、多因子的で慢性的であるので感染症のごとく原因が1因子でピンポイントの治療で効果が上がる場合は少ないという印象です。したがって時には弁証医学ともいわれる東洋医学的思考も必要なのはと考えます。西洋医学は基本理論としては実証的で物理学、化学、数学などに裏打ちされた医学ですが、東洋医学は簡単に言えば実証ではなくその基本理論は哲学的な世界観に基づいた医学とも言えまじょうか。例えば中医学では根本思想は陰陽五行論であります。中国では古代よりこの世界の森羅万象は陰陽によって成立ち、五行論は自然界の全ての現象を「木・火・土・金・水」の五つの基本要素（行）に分類しこれらが互いに「生み（相生）」・「制し（相剋）」しながら循環する理論であり、人間の身体も例外ではないと考えたのだらうと思います。特に高齢者は心身共に複雑で異常の原因も多因子かつ不明の場合も多く、弁証法医学も必要という事でしょうか。

外国人職員雇用についての 取り組み

老健いっぷくは、三条市下田地区に位置し、近くには市の名勝である八木ヶ鼻、にいがた百名山の袴腰山が聳える自然豊かで四季折々の風景が楽しめる場所にある。

地域の現状を踏まえ、施設の将来を見据えて、2022年から計画的且つ積極的に外国人介護職員を雇用している老健いっぷく（医療法人社団しただ。入所：100名、通所：35名）取材した。



五十嵐事務長



飯塚総務部長



総務部：大竹さん



さかうえ
坂上介護士長

—まずは外国人を採用するに至ったきっかけを教えてください

飯塚総務部長：施設の立地などの影響もあり、職員採用募集をかけても多くの人材が集まらない実情があります。そのため、定期的に専門学校などを訪問して情報交換を行っていた中で、介護福祉士養成校の先生からお話しを頂きました。「日本語学校で日本語を勉強した外国人が、専門学校で介護福祉士の勉強をしているが就職先としてどうか？」と。地域の実情と施設の将来を見据えると、人材不足という課題もあったため、外国人の採用に取り組むことにしました。2022年4月、介護福祉士養成校入学と同時に、週末はいっぷくにアルバイトにくるという形で一期生として受け入れを開始しました。2024年4月専門学校卒業と同時に正社員として採用しています。外国人登用制度の枠組みとしては、『在留資格「介護」』にあたります。

—採用後に、戸惑ったことはありましたか？

飯塚総務部長：日本語学校を卒業していて、ある程度話したことは理解できるんですが、施設側としての意図、言葉の背景や意味合いが伝わらないということがありました。例えば、「体調が悪い時は感染症にかかっているかもしれないから、出勤前に施設に連絡をください」と伝えたところ、「わかりました。」と返事をされるんですが、「市販薬を飲んで大丈夫になったから来ました」と出勤してきたことがありました。そのため、相手の返答を鵜呑みにせず、表面的な言葉だけで判断するのではなく、どのように伝わっているか確認を行うようにしています。

—施設として、また指導担当者として心掛けていることはありますか？

飯塚総務部長：受け入れの際はその国の文化や宗教、生活の具合等もある程度、把握して受け入れを行ないました。将来的に長く働いてもらうとなると、いっづくは立地的に車が必要な地域になるため、車文化があるのかどうかも重要でした。また地域の方に理解してもらえるように一期生を採用する際には、回覧板で外国人を採用したことをお知らせしました。採用した後は、生活に不便がないようにフォローすることもとても重要だと考えています。職員寮にはマンスリーアパートのように家具・家電や生活用品が既に揃っており、食糧と着替えだけ持ってくれば生活できる状態にしました。アルバイト期間の水道光熱費は負担してもらいますが、寮費を無料としています。あとは、巷のニュース等の影響からかマイナス側の情報に引っ張られて、どうしてもレッテルを貼りがちなので、みんなに気を付けるように言っています。日本の働き方に合わせて欲しいと思っていますが、相手のことをなるべく理解するように努めなくてはいけないとも思います。

—学生アルバイトに来た方は、皆さん正職員の採用に至っているのでしょうか？

飯塚総務部長：現在は、モンゴル人の方の採用を進めています。学生アルバイトから始めて正社員として採用に至った方が3名（1期生、2期生）、学生アルバイトとして勤務していただいている方が2名（4期生）います。残念ながら、頻回な遅刻が原因で学生アルバイトの期間中に雇用契約を解除した方が1名（3期生）いらっしゃいました。

—外国人の方が行っている業務の内容を教えてください

五十嵐事務長：最初はアルバイトで来ると、日本語も十分には分からないので、まずは環境整備（シーツ交換・浴室清掃等）や下膳等を中心にして頂いています。本人の状況に合わせて、段階的に業務を増やしていき、一般的な身体介護や早番など交代勤務も行ってもらっています。ムルンさんには認知症専門棟で働いてもらっています。漢字を使って記録もしています。

ムルンさん（2期生）：昨年の4月から正社員として働いています。8月から夜勤をしています。その前はアルバイトで2年位働いていました。ご利用者は特徴があって、注意することがいっぱいあります。例えば転倒することとか。認知症がある人は、ちょっと危ないので、注意しています。利用者さんの言葉がわからないときは「私、外国人なんですけど、申し訳ないです、それは何という意味でしょうか。ちょっと教えてもらえれば、お願いします。」と言うと教えてくれます。

坂上介護士長：ムルンさんは、仕事も丁寧ですし助かっています。ご利用者の皆さんからも「どこから来たの？」など声をかけてもらっています。ギターやピアノも弾けて人気者です。ケア拒否のある認知症の方に対しても、本当に物腰柔らかかで、熱心に話しを聞いて、最後まで介助しています。読めない文字があると質問して、ちゃんと覚えてくれているので、漢字にふりがなをふるということもないです。



飯塚総務部長：出身国は介護のシステムが発達しておらず、「なんとなくお年寄りの方と仲良くおしゃべりすればいいのかな」という介護のイメージを持っていた方がいました。実際には認知症や寝たきりの方など様々なご利用者がいます。その中で、2期生・3期生の方は、先輩の1期生に相談することもあります。難しい言葉などは通訳してもらえるので、ありがたいです。また必要時は、通訳アプリを活用しながらコミュニケーションを密にとるように意識しています。



ムルンさん（2期生）



バザラさん（4期生）



ドルジさん（4期生）

—業務をする際に心掛けていることを教えてください

坂上介護士長：母国での日本語の勉強、来日して日本語学校、介護専門学校を経て、平仮名やカタカナの他、漢字の読み書きができる方が多いです。わからない言葉や文章は、スマホの翻訳アプリを活用することもあります。また業務連絡や指示を出す際も「わかりました」と返答したとしても、その後も困っていないか？など進捗を確認するようにしています。

飯塚総務部長：相手の文化や宗教、個性を考慮しながらも、日本でご利用者を相手に働く意義や組織人としての責任などは、事前にしっかりと説明しています。また正社員は、日本人同様の給与体系で採用しています。2027年度からは、6期生として初めてバングラデシュの方を留学生アルバイトから採用を始める予定です。業務中は礼拝ができないこと、ヒジャブの着用ができないことなどを事前に説明を行いました。相手の宗教や文化を知ることは必要な対応だと思います。

—私生活で配慮していることを教えてください

総務部の大竹さん：日常生活上の困りごとや相談窓口を担当しています。ショートメールで連絡がくることもありますが、実際に業務中の本人と顔を合わせて、困りごとがないか定期的にコミュニケーションをとることを心掛けています。寮の電球交換といった些細なことから、必要に応じて留学生アルバイトの方を対象に食料品の購入や施設の最寄り駅までの送り迎えなどの支援も行っています。

飯塚総務部長：少しでも働きやすい環境を提供したいと思っています。感染症に罹患した際などは、食糧の手配など生活面の支援も必要です。また母国への仕送りや様々な出費にて、生活費が足りなくなってしまうこともありました。その際には、法人で検討し給料の一部先払いという形で対応することもありました。このように前例がないこともありますが、状況に応じて法人内で検討し柔軟に対応できるように心がけています。

—おわりに今後についてメッセージをお願いします

ムルンさん：事前にADLや認知症など、よく確認した上でご利用者とコミュニケーションをとっています。方言を使用しての会話は慣れるまで大変でした。皆さんに安心してもらえるよう信頼関係を作っていきたいです。日本に来る前は、バリスタとして心を込めて温かい気持ちでコーヒーを淹れていました。日本でも同様に、心を込めて温かい気持ちで介護を行いたいです。

坂上介護士長：受入れ前は、言葉の壁を心配しました。しかし思っていたような問題はありませんでした。一緒に働く上で、寂しさや孤独を感じないようにコミュニケーションをとっていくことを心掛けていきたいです。

飯塚総務部長：真面目で、何かあっても話をするのでわかってもらえています。今後も計画的に毎年、外国人の採用を行いたいです。そのため、立地の課題はありながらも、いっぴくを選んでもらえるよう信頼関係を構築するとともに、困りごとや生活面のフォローを行い公私で働きやすい環境を作っていきたいです。

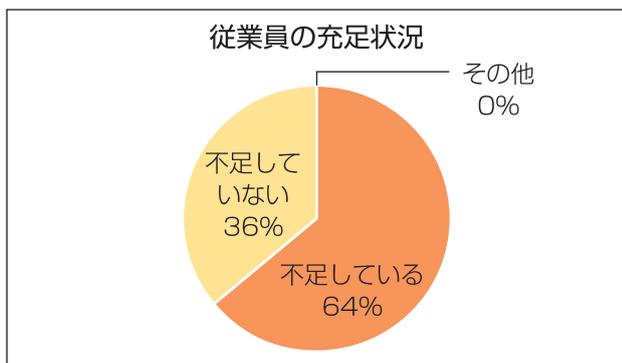
取材にご協力いただき、ありがとうございました。

令和7年度外国人人材雇用に関するアンケート結果報告

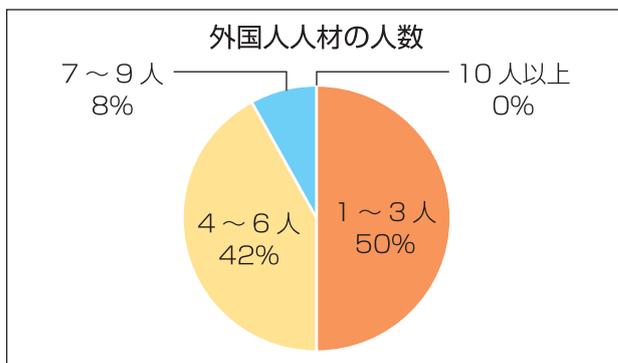
(2025.10月実施)

10月に実施いたしました「外国人人材雇用に関するアンケート」集計結果を報告いたします。
 回答施設 39 施設 / 81 施設 (回答率 48%)
 今後の施設運営の参考としてご活用ください。

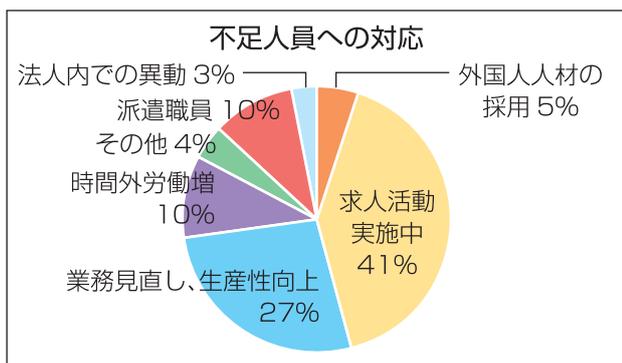
●施設での現在の職員の充足状況



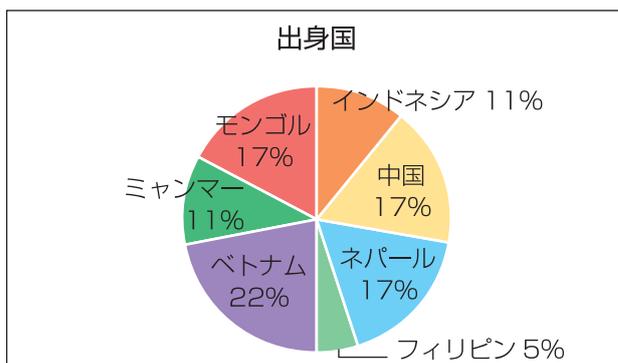
●外国人人材の雇用は何人ですか



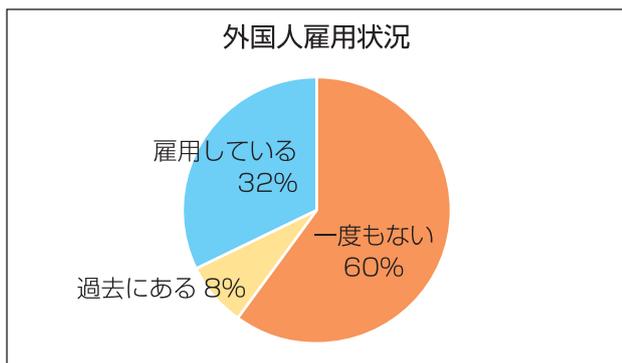
●不足人員への対応策



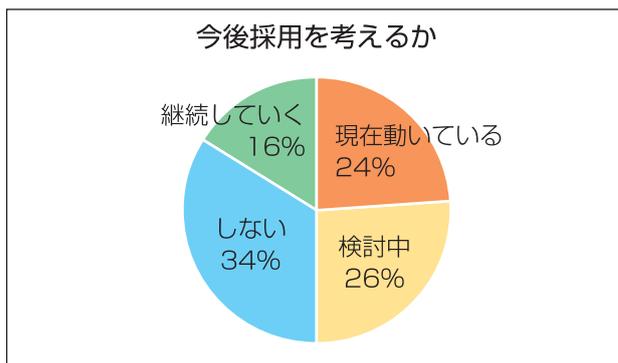
●外国人人材の出身国はどこですか



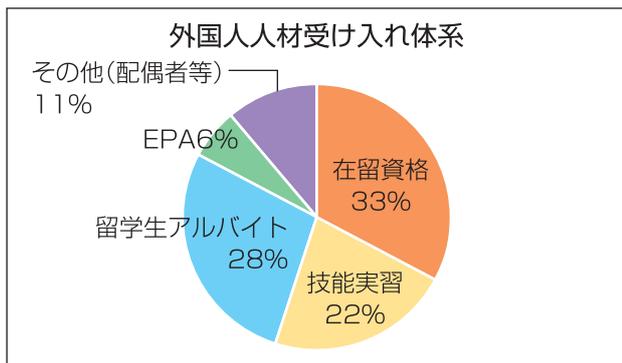
●外国人人材の雇用状況



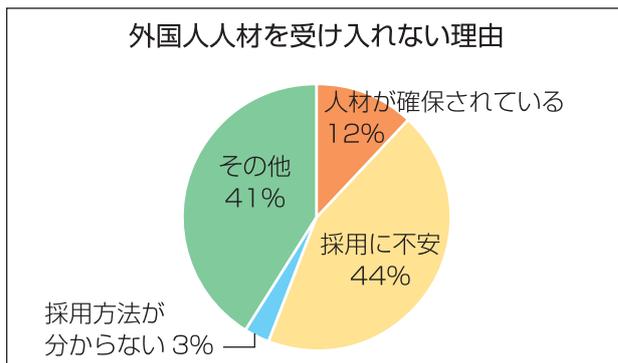
●今後、外国人人材の採用を考えているか



●外国人人材の受け入れ形態は



●外国人人材を受け入れない理由



研修会報告

ターミナルケア研修会

開催日：令和7年7月29日（火） 会場：NOC プラザ 参加施設：26施設 参加人数：49名

7月29日、けあんちゅ Pro 代表・森幸夫氏を講師にお迎えし、「死を迎える利用者様とどう向き合えばいい？」をテーマに、利用者様やご家族を支えるケア、そして職員の負担軽減についてご講義いただきました。



講師：森 幸夫氏

「最期」まで尊厳を尊重するケア

介護保険法第1条には「尊厳の保持」が明記されています。高齢者が望む暮らしや生き方に寄り添うことが、「尊厳を尊重するケア」です。これは死を迎える利用者様にも当てはまり、延命治療や過ごし方について、本人の意思を尊重する姿勢が求められます。

ACP とリビングウィルの活用

～尊厳あるケアを実践するために2つの取り組み～

・ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）

利用者様が元気なうちから、将来の医療やケアについて「どう生きたいか」「どう最期を迎えたいか」を、利用者様・ご家族等・医療・ケアチームと繰り返し話し合うプロセスです。利用者様による意思決定を支援し“過程そのもの”が大事で常に更新されます。

※厚生労働省 Hp 人生会議アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

・ リビングウィル（事前指示書）

終末期における延命処置などに関する利用者様の意思を文書として残しておくものです。これは生前の意思表示ですが、将来の状況を正確に予測することは困難なため、ACP と併用し繰り返し見直すことが重要です。

こうした取り組みは、利用者様の意思決定を支えるだけでなく、ご家族や職員の迷いや葛藤の軽減にもつながります。



ターミナル期における多職種連携

ターミナル期に入ると医療的ケアや生活支援が増加します。円滑な対応には、多職種との連携とスタッフ間のコミュニケーションが不可欠です。定期的なカンファレンスで役割を明確にし、夜間や休日には伝達を円滑に行うためのルールを設定することで継続的なケアが保証されます。



介護のプロが出来る最期のケア

ターミナルケアは、単に死の瞬間に立ち会うことや介護を行うことにとどまらず、「その人らしい最期」を支える重要な役割です。職員にとっても、専門性を高める機会となり利用者様やご家族等とともに QOD（Quality of Death = 死の質）を考

えることで、より良いターミナルケアが実現し、「悔いのない最期」につながります。その他にも、ご家族等へのケアにおける信頼関係の構築やハラスメント対策についても貴重なお話を伺うことができました。

参加者の声

- ◆ ACP やリビングウィルを活用したことがなく、今後ターミナル期の利用者とかかわる際に活用していこうと思った。尊厳を尊重するケア、その人らしく生きることが印象的だった。
- ◆ 事細かに説明され自身の体験などを踏まえてお話をされていたので、とても分かりやすかった。今後に生かせることが多かった。
- ◆ 各テーマにグループワークを取り入れて飽きずに一日を終えられた。グループワークで話し合いが出来て、学ぶ点が多かった。今後の看取りケアに役立てられる内容であった。

研修会報告

基礎的な食事介助研修会

開催日：令和7年12月9日(火) 会場：新潟ユニゾンプラザ 参加施設：18施設 参加人数：40名

今回の研修会は、介護老人保健施設いいでの里 言語聴覚士 一般社団法人新潟県言語聴覚士会理事を務められます五十嵐武士氏をお迎えして「基礎的な食事介助」と題してご講義いただきました。

前半の講義では、①食事介助の目的②食事介助の流れと注意点（食事環境・姿勢・食時前の確認・食事中の確認（認知期⇒準備期⇒口腔期⇒咽頭期⇒食道期）・食事介助の方法等）③食事介助時の声掛けの役割④食後の確認と注意点（残渣・痰がらみ・摂取量の確認など）をポイント別に説明していただきました。

五十嵐氏より参加者の皆様にお願いの言葉として、食事の時間は、介助の仕方によってご利用者にとって「楽しみな時間」にもなれば「苦痛な時間」にもなり得る事。特に、自由に歩いたり、好きな趣味に没頭したりすることが困難なご利用者にとって、食事が楽しいかどうかは、生活の質を左右する大きなポイントとなる。おいしいものを食べ、毎回の食事を心待ちにすることで、生きる活力が湧き、自立心や前向きな気持ちにつながっていくことを介助者が理解していく事が大切となる。介助する側がご利用者の気持ちに共感し、「どうすれば安全においしく食べてもらえるか」を考えながら、適切な介助を行うことが重要で、そのためには、介助のポイントを介助者が正しく理解して支援していただきたいとお言葉をいただきました。

後半は前半で受けた講義のポイントや注意点に沿って食事介助の実演を行いました。具体的な内容は介助者、利用者に分かれ通常の車椅子、リクライニング車椅子を使用しゼリーを介助するもので、姿勢の良し悪しや介助者の位置、スプーンのサイズ等の様々な要因が関係していることを実際に体験することで理解を深める事が出来ました。

実演後はグループワークを行いました。施設内での食事介助で困っていることを挙げ、それが今日の研修を踏まえて対応できそうかどうかディスカッションを行い、いくつかのグループには発表もしていただきました。活発な意見交換が行われ有意義な時間となりました。



講師：五十嵐武士氏



不良姿勢での食事介助



正しい姿勢での食事介助

参加者の声

- ◆正しい介助、間違った介助方法を実際に体験する事で、食事介助について見直す事ができた。
- ◆食事時の姿勢では、背ぬき、腰ぬきなど除圧の重要性を学べた。
- ◆利用者様への安心・安全に食事介助を行い満足感を得ていただく事で、事故を防ぎ、QOL 向上に繋がる事が学べた。
- ◆一口の提供量、口腔内に食事を置く位置、飲み込み確認など、再度、知識の確認が行えて良かった。
- ◆振り返りが行えて良かった。施設へ戻り新人職員等にも伝えていきたい。
- ◆実演が大変参考になった。施設に戻り実際に職員と体験会を行っていきたい。

令和7年度新潟県介護老人保健施設大会

令和7年10月24日（金）新潟ユニゾンプラザにおいて「令和7年度 新潟県介護老人保健施設大会」が36施設138名の参加をいただき、6年振りの開催となりました。

開会式では、長谷川まこと会長より開会の挨拶、新潟県福祉保健部副部長 小川智子様、新潟県医師会副会長 内山政二様、新潟県老人福祉施設協議会会長 山田淳子様より、それぞれご祝辞をいただきました。

3会場（口演2会場・ポスター1会場）で口演発表22題、ポスター発表4題が行われました。

各会場とも発表者より、日々のケアの取り組みや課題に対しての研究や成果の発表が行われました。

また参加者からの質問なども多く挙がり、大変充実した学びの深い時間となりました。

●開会式



長谷川会長 開会の挨拶



開会式の様子



参加者

●永年勤続表彰

当協会では、現在勤務している職員で老健業務に15年以上勤務し、施設からの推薦を受けた方に表彰を行っております。

今年度は38施設132名の方が受賞されました。受賞者を代表してやすらぎ園支援相談員の岡本直樹さんに、長谷川まこと会長より表彰状と記念品を授与いたしました。



●大会の様子



●閉会式の様子

閉会式では学術研修担当理事 金沢宏理事より、講評・学術奨励賞の発表がありました。選考基準と各会場の座長・選考委員（学術研修担当理事、協会監事）の評価、参加者による投票数から投票の獲得数により選考し、多数獲得した発表演題から3題が、受賞されました。受賞者は令和8年度の通常総会で表彰されます。

最後に荒川太郎副会長より、閉会の挨拶と来年度の県大会開催のアナウンスにて閉幕となりました。



荒川副会長 閉会の挨拶



学術研修担当理事 金沢理事より 講評の様子



学術奨励賞 受賞者の皆さん

～学術奨励賞演題～

演題	施設名	発表者
もう一度スタジアムへ	おぎの里	渡邊 栄一
老健のチームで支えた側臥位から座位摂取への挑戦	ほほえみの里きど	二瓶 陽子
「美味しい」をもっと届けたい	楽山苑	関塚 友紀乃

(施設50音順・敬称略)

受賞の感想は？

●おぎの里

この度は、学術奨励賞という大変光栄な賞をいただき、心より感謝申し上げます。

今回発表させていただいた事例は、エンドオブライフケアに関する取り組みでした。「生きがい」という所では、高橋在也先生の講演を拝聴し自分たちの実践がより深まったと感じています。今後もより良いケアにつながる実践を他職種で協力しながら継続していきたいと思っております。

●ほほえみの里きど

この度は素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。

私たちの日々の実践と研究発表に費やした努力が、このような形で評価していただいた事に大きな喜びと達成感を感じています。

●楽山苑

本研究に込めた想いと成果を届けることができ、受賞という形となったこと、大変うれしく思います。研究に携わっていただいた方々、発表を聞いていただいた方々へ感謝の気持ちでいっぱいです。大会への参加は初めてでしたが、管理栄養士として良い経験となりました。

令和8年度 新潟県介護老人保健施設大会日程

日程 令和8年10月2日（金）
会場 新潟テルサ

令和8年度 全国介護老人保健施設大会栃木日程

日程 令和8年10月22日（木）～10月23日（金）
会場 ライトキューブ宇都宮



市民公開セミナー

いのち・くらし・生きがい・表現：生きることと支えとしてのケア

開催日：令和7年10月24日（金） 講師：日本在宅ケアアライアンス 高橋 在也 氏

市民公開セミナーは、新潟県介護老人保健施設大会と同日の令和7年10月24日（金）に新潟ユニゾンプラザにて行われました。講師に日本在宅ケアアライアンスの高橋在也氏をお迎えしました。

生きがいを大切にする医療・ケアとは、ふだんのケアややり取りの中で、①生命（体の状態・つらさ）、②生活（暮らしの状態・どんな暮らしをしたいか）、③人生（どういう人生を送りたいか）といった3つのLIFEの視点が重要であること。対話とは、自分自身の言葉が大切にされる体験であり、対話を重ねることで、本人と周囲の人（家族・専門職など）が、からだや暮らしを整えながら、生きがいと一緒に探して『物語』にしていく支援の重要性の説明がありました。



座長を務めた荒川副会長との掛け合いの中で、今後の福祉・介護業界については限られた人材、資源の中でICT化など能率的、効率的な支援が求められる一方で、専門職だけではなく地域の様々な分野の人たちと手を取り合い、その人の生きがいに着目する視点が重要であるとのことでした。

たかはし ざい や 高橋在也氏プロフィール

群馬県前橋市生まれ。
日本在宅ケアアライアンス研究事業部長
千葉大学大学院医学研究院特任助教
ピアニスト・作曲家としても活躍し、各地でコンサートを開催

高橋先生の柔らかく優しい口調は、参加者の心にスッと浸みこみ、まさにピアノの音色のようでした。また曾祖父であり、詩人の高橋元吉氏や家族のお話、ご実家である明治初期創業の老舗書店煥乎堂（群馬県前橋市）のお話など講師本人が大切にされている生きがいや物語を基にした講話がとても印象的でした。



参加者の声

- ◆生きがいを持ちながら利用者様に生活を送ってもらうため、その方その方の人生を聞き、話をしてもらうことで、その方の何が生きがいになるのかを考えケアをすることが大切なんだと思いました。
- ◆ケアの根本について知ることができました。人はやはりコミュニケーションをとることで、心が満たされ生きがいを持てると感じました。

外出リハビリを通じて

いいでの里 介護福祉士 武田 由紀

通所リハビリでは、リハビリの一環で「外出リハビリ」を積極的に行っていたのですが、コロナ感染拡大以降できない状況が続いていました。しかし、今年度から少しずつ再開できるようになり、6月には五十公野公園へあやめ見物に、9月には聖籠へぶどう狩りに出かけました。久しぶりの外出に皆様のいつもと違う表情がみられ、私たちも嬉しくなりました。

毎年8月に開催される「新発田祭り」に行ってみよう！行ってみたい！という声が聞かれ、初の試みとして8月28日に暑さが心配される中、出かける事になりました。暑さ対策として帽子、保冷剤、水分を持参しました。新発田を代表する諏訪神社、通称「お諏訪様」には27日に各町内から奉納された台輪が6台、整然と並んでいました。お祭りの最終日に、お諏訪様から各町内へ台輪をあおりながら戻る「帰り台輪」に備えて戦闘準備をしているように感じられました。お祭りは何十年ぶり！初めて！という方もおり、皆様の喜びはひとしおのようでした。代表でお一人がりハビリ職員と境内まで行かれ、参拝する事ができ、またちょうど「神楽舞」の披露があり、木陰から観る事が出来ました。甘いにおいに誘われつつ露店の間を歩きながらお祭りを味わい、あっという間に時間となりました。今後も皆様の意見を聞きながら、社会との繋がりを大切にできる活動を提供していきたいです。



季節を感じられる楽しみをつくる

アグリケアコートいといがわ(旧ケアポートよしだ) 作業療法士 山岸 由貴

私たちの施設は、令和7年秋から名称が変わり、「アグリケアコートいといがわ」になりました。地域社会との繋がりを大切に、医療と福祉の連携が図れるよう、整形外科と内科病院が併設されており、老健施設ではデイケアや居宅介護・地域包括支援事業、ショートステイ、入所を行っています。

施設での取り組みでは、コロナ禍からレクリエーションや施設全体で行う行事が変わってしまいましたが、ご利用者様に季節毎の催し・思い出を懐かしみ楽しんでいただけるようフロアごとに行うよう計画しています。今まで行った取り組みは、デイケアでは花壇を利用したサツマイモ栽培・収穫、ご利用者様と一緒に調理し（ご利用者様にはサツマイモを切る作業を行っていただきました。）焼き芋にして食べました。

また入所では、夏に職員が自宅で育てた紫蘇を、ご利用者様と一緒に紫蘇の葉を採り、紫蘇ジュースを作りました。暑い夏を乗り越える為、昔はよく自宅で作って飲んでいたことを思い出され、話が弾んでおられました。その他にも、地元糸魚川の麴を使った冷やし甘酒を作りご利用者様へ提供し、楽しんでいただきました。

まだまだコロナ禍前のように行事が行えていない現状ではありますが、ご利用者様に喜んでいただけるよう職員が一丸となり、より良い施設を作りたいです。



世代を超えた交流 保育園児との感動的なひと時

越南苑 作業療法士 渡邊 茂樹

秋の深まる中、地元の保育園の園児たちが小雨の中レインコート姿で越南苑まで来てくれました。新型コロナウイルス発生以降、踊りや楽器演奏などのボランティアさんは来ていただいておりましたが、直接ふれ合う外部交流がようやく再開。園児による歌やダンスの発表、そして温かい肩たたきのサービスで、ご利用者の皆様に笑顔の花が咲きました。来苑当初は少し緊張していた様子の園児たちも、ご利用者とのふれあいを通じて元気な笑顔でおしゃべり。中には「感動して泣いちゃった」と話す子もあり、私たちスタッフも胸を打たれました。もちろん、ご利用者も感涙され、その様子に感動で涙を流すスタッフの姿も見受けられました。



老健施設としてご利用者の生命を守ることは最優先ですが、感染リスクを恐れるあまり外部交流を慎重にし過ぎたことは否めません。今回の企画が地域交流再開の大きな一歩となり、「地域に開かれた施設」としての新たな始まりになったと感じています。世代を超えた温かい心の交流が、これからも越南苑の日常に彩を添えてくれることでしょう。



ご利用者様の QOL 向上のために

さつき荘 事務長補佐 瀬野 将史

さつき荘ではご利用者様の QOL 向上のため、リハビリテーションの充実を図っています。現在、リハビリテーション部門は理学療法士4名に加え、2025年4月より新たに作業療法士1名を迎え、計5名体制で老健入所者および通所リハビリテーションの利用者のリハビリを担当しています。

入所者様に対しては短期集中リハビリテーションを始めとする加算に取り組むことで更なる入所者様の運動機能維持に努めております。



また、通所リハビリテーションではリハビリ特化型として短時間で効果的なりハビリを行うことで介護度の進行を防ぐことを目的としております。

今後は訪問リハビリテーションも立ち上げる予定となりますので、リハビリのますますの拡充をさせることでこれからもご利用者様に喜んでいただけるよう職員一丸となって取り組んで参ります。

行事を通じて得られるもの

健やか園 理学療法士 小野塚 伸行

健やか園は、街と田んぼが程よく融合した新潟市西区にある施設です。当園デイケアの利用者様はお体の状態こそ様々ですが、皆さん明るく楽しく、お元気な方が多いです。

利用者様が元気となれば、職員も負けてはいられません。当園では季節に合わせた行事に力を入れていますので、一部をご紹介します。

写真は新年会の様子で、日本伝統芸である『傘回し』や『手品』を職員が披露した時のものです。利用者様の元気に負けてられない職員は、本気で『傘回し』や『手品』を練習！練習！練習！気が付けば、胸を張って一芸と言えるレベルの芸を披露することができました。職員が本気で練習した芸は利用者様にも伝わり、皆さん目を丸くして驚いてくれたり、笑ってくれたり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。そして、このような行事が利用者様と職員の信頼関係をさらに強くしてくれると感じています。



介護業界では人手不足が心配されていますが、当園では職員一同いろいろな工夫をして利用者様との関係を強くしてくれるこのような機会を継続していきたいと思っています。



ご利用者様の「楽しい」を目指して

常盤園 准看護師兼介護支援専門員 遠藤 智春

当施設は、弥彦山、角田山に見守られ、周囲の田んぼはもちろん、自然豊かな景色を間近で感じることができる場所にあります。

少しでも施設の生活を楽しんでいただけるように、お体の状態等を確認しながらメニューを職員で考え、「楽しく身体と頭を動かしましょう」をモットーにレクリエーションに参加していただいております。

「さあ今日の太公望はだれでしょうか」の掛け声で当園人気ナンバーワンの魚釣りゲームが始まりました。大きな池に熱帯魚、金目鯛、金魚に、なぜかお寿司にサツマイモまで。

みんな竿をたらし「あっ寿司釣れた」と声をあげたり、同じ魚を集中して釣り上げる方も。ワイワイとにぎやかです。これからもご利用者様が楽しい時間を送っていただけるようお手伝いしていきます。



基本型から超強化型への取り組み

にいがた園 支援相談員 川上 春奈

にいがた園は、女池インターを降りて、とやの中央病院の併設施設です。

新潟市で最初にできた老健施設で設立して37年になりました。2023年2月まで基本型施設の類型でしたが、2023年3月から加算型、2024年7月から在宅強化型、2024年10月から現在に至るまで超強化型施設として運営しています。

超強化型施設に至るまでの取り組みとして、長期利用からリハビリをして在宅復帰目的での利用方法の提案、医療ケアの拡充（在宅酸素、経鼻経管栄養の管理、喀痰吸引の実施）、在宅復帰にむけた具体的なリハビリの提案から身体機能の向上・在宅復帰の達成、次の施設への移行についての丁寧な対応をおこなっています。また、中間施設としての役割を明確化し、日々取り組んできたことで、結果指標点数に結び付いたこと、多職種連携により日々の安全安心な運営と、自分たちで課題を解決できる施設として、この3年間で大きく成長することができました。今後も介護保険法令の改定や多様化する社会現状の中で、法人の強みである「医療と介護をシームレスに提供し、地域社会の中で共に成長していく。」ことをモットーに地域の中で老健としての役割を担っていくことを目指していきたいです。



祝🌟マチュア産の新米が採れました! ~ご利用者様の能力を生かした新たな取り組み~

マチュアハウス中条 作業療法士 須貝 真梨果

当施設では、胎内市の農家が多いという地域特性を活かし、ご利用者様とともに旬の野菜を栽培しています。今年は、初の試みとして田植えに挑戦しました。稲作の経験を持つご利用者様は、まさに「稲作のプロ」です。稲を植える幅や、水張りなどの知識と技術を教わりながら、5月の田植えから10月の稲刈り・精米まで行いました。ご利用者様は「もっと（植える）稲はねえか?」と話され、生き生きと作業されていました。11月には「収穫祭」を開催し、収穫した新米のお



にぎりをメインに、菊のお浸し、玉子焼き、豚汁を特別メニューとして提供しました。前日には管理栄養士や介護福祉士と連携し、ご利用者様と野菜の皮むきや、菊の花取りをしました。ご利用者様からは「新米は違うね」との声が聞かれ、収穫の喜びを分かち合うことができ、大変嬉しかったです。

今後も多職種で連携しながら、ご利用者様が能力を発揮し、楽しんで参加していただける取り組みを実施してまいります。

みんなの広場

いいでの里

デイケアでは、利用者の皆様で、細長く切った紙をくるくると巻いたものを下書きの絵にボンドでツツンと貼り付けて色を塗り、立体的な壁画を作成しています。今回の作品は、世界遺産の佐渡金山です。



アグリケアコートいといがわ

通所リハビリのご利用者様とレクリエーションで使用する「お芋」を作製しました。

新聞紙で形を作り、ちり紙で皮を付け作製段階を楽しみながら行いました。ご利用者様によってはこだわりを持って作業に取り組まれるので、いろんな「お芋」を作ることができレクリエーションでの活動も活性が図れます。



越南苑

フェルトと毛糸を用いた蚕棚を再現しました。葉っぱのステッチや毛糸巻き(蚕作り)を利用者様にさせていただきました。この地域では、蚕を「ぼこさま」と言います。この作品がお話のきっかけになれば幸いです。



さつき荘

寒い冬を乗り切ろうと、通所リハビリテーションのみなさまで心を込めて作品を作りました。ミカンの甘さと暖かさが、寒い時期を乗り越える助けになればと思っています。



健やか園

みんなで協力して作成した「サザエさん」と「たらちゃん」です。お花紙を小さく、小さく丸めて貼り付けました。完成するまでどんな絵になるのか、毎回ご利用者とドキドキを楽しみながら活動しています。



常盤園

毎月季節に合わせて、ホール、お部屋に飾るカレンダーの塗り絵を行っています。面会時「綺麗に塗れた」とご家族に笑顔でお渡しになる方もおられます。

ホール、お部屋に飾られたカレンダーを見ながら季節を感じ「きれいね」「上手ね」と会話が弾みます。



にいがた園

にいがた園では、認知機能賦活訓練として書道や季節に合わせた作品作りをしています。作業活動は皆様との会話に花が咲く楽しいひと時になっており、今後も素敵な笑顔が増えるよう取り組んで参ります。



マチュアハウス中条

通所リハのご利用者様で協力して作り上げました。胎内市のキャラクター「やらにゃん」は、パネル仕様で、記念撮影もできます。また、新潟県の市町村地図は、皆さんで眺めながら、会話のコマとなっています。



編集後記

皆さまのご協力により、老健にいがた第58号を無事に発行することが出来ました。原稿の執筆や特集記事のインタビュー依頼に快くご承諾くださいました各施設様のおかげです。厚く御礼申し上げます。

令和7年10月24日、新型コロナウイルスのために開催中止となっていた新潟県介護老人保健施設大会が6年振りに開催されました。変化する社会情勢の中で、研究内容にも変化がみられました。「老健にいがた」も皆様のお役に立てる広報誌となれるよう、変化していきたいと思っております。(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌

「老健にいがた」第58号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会
広報委員会

〒959-4626 新潟県東蒲原郡阿賀町あが野南4324-2
介護老人保健施設 三川しんあい園内
TEL (0254) 99-5111
FAX (0254) 99-5121

URL <http://niigata-rouken.org/>
印刷 有限会社フジプリント